

令和 7 年度第 1 回秦野市廃棄物対策審議会概要

- 1 日 時 令和 7 年 8 月 6 日（水）
午後 2 時 5 5 分から午後 4 時 2 0 分まで
- 2 場 所 秦野市浄水管理センター 4 階 A 会議室
- 3 出席者 1 3 名（欠席 1 名）

東海大学名誉教授	原田一郎委員
東海大学教養学部人間環境学科教授	小栗和也委員
東海大学教養学部人間環境学科教授	勝田悟委員
秦野市自治会連合会	浅見博委員
秦野市農業協同組合女性部副部長	片倉真弓委員
秦野市商店会連合会副会長	柏木真一委員
秦野商工会議所	高橋大助委員
公益社団法人神奈川県宅地建物取引業協会	
湘南中支部秦野地区	樺島進一郎委員
秦野市食生活改善団体副会長	古谷典子委員
消費生活センター	佐伯孝子委員
公募市民	稲本美保委員
公募市民	小山田規子委員
公募市民	石井慶典委員
※欠席者 東京地方税理士会平塚支部	井上慶彦委員
- 4 会議概要
 - (1) 委嘱状交付、会議資料配布（机上配付）
 - (2) 部長挨拶、事務局紹介
 - (3) 事務局より、委員 1 名欠席（井上委員）であるが、秦野市廃棄物対策審議会規則第 6 条第 2 項に基づき、会議が成立していることを報告。
 - (4) 会長・副会長選任
会長には原田委員、副会長には浅見委員を選任した。
 - (5) 報告事項（要点筆記）
ア 令和 6 年度可燃ごみ処理実績について

資料 1 の概要について事務局から説明し、その内容について委員から次の(ア)～(オ)のとおり意見、質問等が挙げられた。

- (ア) プラスチックの一括回収が始まったが、可燃ごみの数値にはプラスチックの量が引かれているのか。

(事務局回答) プラスチックと可燃ごみは別で回収しているため、原則含まれてはいないが、分別がしきれていないものが可燃ごみに混ざっている可能性はある。前回の組成分析の際は 4 %ほどプラスチックが入っていた。

(追加意見) 製品プラスチックとして出せる条件が厳しすぎる。

プラスチックの概念は非常に幅広いが、プラスチックの回収実績のデータが出ていることだけでもすごいと思う。

- (イ) 資源物が昨年度に比べ減少しているが、減少している一番の要因は何か。また、どんなものが多く出されているか。

(事務局回答) 資源物が減少している主な要因は古紙であり、デジタル化に伴うものと思われる。プラスチックやペットボトルは増加している。

(追加意見) 資源の内訳をみることによって、積極的に回収していく必要のあるものがわかってくると思う。

- (ウ) 一般的なクリーンセンターは、発生する可燃ごみの量を基にキャパシティを設定し建造するが、秦野市はクリーンセンターのキャパシティが先に決まっており、それに合わせて可燃ごみの量を減らすような体制となっている。今のところキャパシティを超えることはないが、ごみは絶対になくならないため、いかにして減らしていくかが重要だと思う。また、プラスチックや資源物の量があまり伸びない現状があるため、いろいろな形で PR していく必要があると思う。

- (エ) ごみの量と人口との関係も見ていくと今後の傾向やごみの出方が変わってくると思う。

- (オ) はだのクリーンセンターのキャパシティはどのくらいか。

(事務局回答) はだのクリーンセンターは 1 日 200 トン処理が可能であり、メンテナンス等の稼働停止の日を除く年間 280 日稼働する計算で 56,000 トンの処理が可能である。

これを秦野市と伊勢原市の人口比で 6 対 4 に分け、33,600 トンが秦野

市の年間処理量となる。令和6年度の焼却対象量は32,046トンであり、余分はある状況だが、時期によって炉が稼働停止する期間があるため、引き続きごみを減量していく必要がある。

全国的なトレンドとしてごみ袋の有料化があるが、本市では、順調にごみの減量が進んでいることもあり、有料化せずに済んでいることは実績の一つだと思う。

イ 令和7年度から実施しているプラスチック一括回収に伴うプラスチック・ペットボトルの処理実績について

資料2の概要について事務局から説明し、その内容について委員から次の(カ)～(コ)のとおり意見、質問等が挙げられた。

(カ) 製品プラスチックについて、データとして表面に出てきたことは大変望ましい傾向である。ぜひとも続けていく必要がある。

(キ) プラスチックなど石油由来のものは、可燃ごみとして処理する際は燃料にもなるが、分別が進み、プラスチックが可燃ごみの中に入らなくなると、燃料となるものが減り、可燃ごみの処理のために燃料を追加してしまう可能性はないのか。

(事務局回答)可燃ごみに含まれるプラスチックがどこまで減るかにもよるが、可能性としては出てくるかもしれない。

(追加意見)燃料を追加するとなると、二酸化炭素排出量が増える。プラスチックのリサイクルとの間でジレンマがあり難しい問題だと思う。

(ク) 生分解性プラスチック製品が市場に出回っているが、回収対象に入っているのか。

(事務局回答)基本的にはポリエチレンやポリプロピレン製のものを対象としているが、容器包装リサイクル協会に確認をとり、生分解性プラスチックの回収が可能か確認し、100%プラスチックであれば回収していきたい。

(追加意見)経済産業省では石油由来のものしか対象になっておらず、容器包装プラスチックからも生分解性プラスチック製は外す動きがあるが、一般市民からすると石油由来のものも生分解性のものも同じものに見え、区別が難しいと思う。

(ケ) ポリエステル１００％の衣類などは対象となるのか。市民からそのような質問が来ると思う。

（事務局回答）環境省の基準では対象ではないため秦野市もそれに倣い、除外をしているが、現時点ではそのような問い合わせは受けていない。プラスチックについてまだ市民には浸透していないところもあり、今後認知度が高まっていく中でこちらも研究し、市民に分かりやすく周知していく必要があると考えている。

（追加意見）データをとる際は対象をどこに絞るかが重要なポイントになると思う。

(コ) ごみを実際に出す際に、市民はカレンダーを見てごみ出しをすると思うが、ごみ収集場所の看板の更新状況はどうか。また、更新作業を自治会に頼んではどうか。

（事務局回答）２割程度完了しており、順次対応中である。自治会への依頼は、自治会への負担になってしまうことを考慮し、積極的にはお願いしていない状況である。

（追加意見）自治会連合会を利用することも一つの手だと思う。

ウ 秦野市ごみ処理基本計画の見直しへ向けたスケジュール確認

ごみ処理基本計画改定スケジュール（予定）について事務局から説明し、その内容について委員から次の(サ)～(ス)のとおり意見、質問等が挙げられた。

(サ) 前段において最終処分場がひっ迫しているということがあったが、何か対処する計画はあるのか。

（事務局回答）既に最終処分場は一杯になっており、焼却灰は全て県外搬出として委託している。

(シ) (サ)に関連した内容だが、焼却灰処理について、熔融固化などの方法は考えているのか。また、最終処分に係るコストの検討はしているのか。

（事務局回答）焼却灰の処理は二市組合が実施しており、処分先によっては熔融固化しているところもあると思う。またコストについても二市組合となるため、費用対効果の高い方法での処理となる。秦野市だけでの判断はできない。

(ス) ごみの減量には市民の協力が大事だと思うが、ごみ袋の有料化は避けて通れるのか。

(事務局回答) ごみの減量が順調に進んでいるため、現時点では有料化は考えていない。ただし、ごみ処理に係る財源が市税では賄いきれないような判断となれば、有料化の可能性がある。今後も有料化をできるだけ避けるような運営をしていく。

(追加意見) 現在ごみ袋が有料の自治体に住んでいるが、無料だった時と比べ、分別に努力をするようになったので、一定の効果はあると思う。

環境負荷は全てコストになるということが世界的な流れとしてあるが、たくさん出す人も少ししか出さない人も無料だと、コストのイメージがなくなってしまう。有料化することによって、燃えるものは熱となってサーマルリサイクルできるし、きちんと分別すれば資源になるというような学習効果は高いと思う。

逆に、有料になったからいくら出しても問題ないと思う人が出てくる可能性もあるため、慎重に検討する必要があると思う。

以上